

東芝、鹿児島で風力発電

子会社が竣工式 2000キロワット2基を整備

東芝は13日、風力発電事業を手掛ける子会社のシグマパワーージャネットスが鹿児島県長島町で運営させた「新長島黒ノ瀬戸風力発電所」の竣工式を同日開催したと発表した。同発電所は出力2千キロワットの風力を2基備える。東芝は2011年に韓国ユニスンと資本提携し、風車発電機器の開発・製造事業に参入。台風が多い日本特有の気象や、日本の耐雷基準に対応した風車の開発を進めてきた。今回はユニスンが製造した発電機を採用。ユニスン製発電機を東芝が日本仕様で改良したため、東芝ブランドの風力が運開するのは初めてとなる。

同発電所の着工は14年8月。15年3月末に運転を開始していた。東芝は

13年から、九州大学応用力学研究所の内田准教授と共同で、発電量を最大化し、風車を安全に運転できる設置位置を決める風況解析手法を開発している。今回の風力発電所では、多数のセンサーを風車などに設置。長期間収集している風況データとあわせて解析手法を検

証してきた。今後、東芝は開発した風況解析手法を風車の設置検討に活用していく。

東芝は13年、九州を中心に風力発電事業を手掛ける「ジャネットス」を事実上買収して新会社のシグマパワーージャネットスを設立し、同事業に参入。既設の2カ所の風力

発電所を運営するとともに、新規開発プロジェクトを進めてきた。既設発電所のうち、鹿児島県長島町の「長島黒ノ瀬戸風力発電所」の隣に、今回の風力発電所が建設された。この他、2千キロワットの風力を8基備える風力発電所を愛媛県で建設している。